



PREX NOW

No. 129

November
2003

財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

- page 1~2 ●ニュース&レポート 1
PREXモンゴル同窓会との初の共同事業、
成功裡に終了!
- page 3 ●団体訪問
阪神・淡路大震災記念
「人と防災未来センター」を訪問
- page 4 ●ニュース&レポート 2
新たな遠隔研修方式のテストラン
—AOTS遠隔研修システムの有効活用—
- page 5 ●PREX役員、常任幹事のひとこと
アジア経済の発展と日本の景気回復
PREX顧問 小川 修司
- page 6 ●PREXだより
事務局ニュース
11月実施の研修
コラム



ニュース&レポート ①

News & Report

PREXモンゴル同窓会との初の共同事業、成功裡に終了! [2003年度モンゴル同窓会フォローアップセミナー]

9月18日から20日にかけて、モンゴル同窓会フォローアップセミナーを開催した。2日間は非公開セミナーとして同窓会員へのフォローアップを行い、残る1日は広くモンゴルの企業関係者の参加を募り公開セミナーを実施。同窓会員であるモンゴル企業経営者による講演、日本の中小企業経営コンサルタントによる講演、現地進出日本企業代表4名を招いてのパネルディスカッションに、モンゴル全土から計132名の受講者が集まり、大きな反響が得られた。

■PREXモンゴル同窓会、モンゴル日本センターと今後の協力を約束 <現地関係者の声>

今回の公開セミナーは、国際協力事業団、モンゴル日本センターならびにPREXモンゴル同窓会の多大な協力を得て実現した。同窓会ではアマルサナー会長の陣頭指揮のもと、通訳やドライバーの手配から教材準備まで、積極的かつ確実に手配いただいた。また日本センターにはセミナー会場を提供いただくとともに、モンゴル同窓会にも種々のアドバイスをいただくことができた。以下、セミナー終了後のアマルサ

ナー会長と日本センター井上ビジネスコース専門家との話し合いの様子を紹介したい。

◎PREX：同窓会、日本センターに多大なご協力を頂き、成功裡にセミナーを終えることが出来ました。今回のセミナーの評価をお聞かせください。

◎アマルサナー会長：2003年1月に正式にNGOとして法人登録し、今回が初めての正式な活動になります。計132名の参加者の中には、モンゴルのトップ5社の経営者も含まれ、ダルハンやオルホン県など地方からの参加・問い合わせも多数あり、関心の度合いが非常に高かったことが分かります。全国紙で発行数最多の「毎日新聞」に2回にわたり広告を打ったことも効果があったと思います。パネルディスカッションでは、日本企業からモンゴル企業への意見や要望がダイレクトに聞けたのがよかったとの反応です。是非今後ともセミナーを継続出来ればと思います。例えば対象者を30名に絞り、1週間かけてじっくり学習してもらい、あるいは、PREX中央アジア同窓会との共同開催も面白いのではないのでしょうか。

◎井上専門家：予想以上の出来。有料にもかかわらずこんなに参加されたことに驚きました。PREX同窓会員であるモンゴル人経営者による講演を入れたのがよかったと思います。この種のセミナーは日本人講師によるものばかりなので、特徴が出せた。講演自体非常によく構成されたものであり、今後もっとモンゴル人による講演を入れたらよいと思います。今回のセミナーをきっかけとしてPREX同窓会員が再会し、友情を深められた点でも有益なものだったのではないのでしょうか。モンゴル日本センターとしても今後同窓会活動を支援していきたいと思っています。

◎PREX：今回の出張でモンゴル商工会議所やモンゴル経営者協会など、企業支援を行っている機関とも話し合う機会がありました。ぜひ関係を続け、日本センターの協力も得ながら、同窓会とともに活発に事業展開をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

—国際交流部 コースプランナー 若菜 愛



ウランバートル市内にある国会議事堂前にて
(左端、井上氏、左から2番目、アマルサナー会長)



今回のセミナー開始にあたってPREX若菜コースプランナーと打ち合わせ中のアマルサナー会長(右側)

講師の声

モンゴル訪問・セミナー感想記

内海 政嘉 (株)クリエイション代表

この度フォローアップセミナー実施のため、9月13日～21日にかけてモンゴルを訪問した。

ウランバートルについてまず驚いたことは車の多さであり、日本のオートボックスが現在出店を検討していることもうなずけた。もう一つは、現地スーパーで買い物をした際に店員さんに笑顔が見られないこと。これは以前に訪問したキルギスでも同じであり、まだまだお客様に喜んでいただくといった意識は希薄に思われた。ただここ数年でレストランなどは急激に増え、それによって接客も大幅に改善されてきたよう



非公開セミナー休憩時間、内海講師(中央)を囲んで。どの人がモンゴル人でしょう?

で、競争がよいサービスを生むことを改めて痛感した。

フォローアップで印象深かった一つとして、研修員企業を訪問した時のお話で、マーケティングや投資を中心とした今後10年間のマスタープランが認められ、銀行からの融資も確約されており、このプランはPREX研修で学んだビジネスプラン作成で得たノウハウがベースになっていることであった。もう一つは研修員が同研修で練りに練った新規事業プラン(生肉製造)が実際に展開され大きな成功を収めていたことである。

モンゴル遊牧民の気質として“思い立ったら即行動”といった傾向があり、お二人とも以前は無計画な投資での失敗もあったようだが、ビジネスプランを作成した上で投資をするようになったこと、そして研修で得たものは人生の中でも大きなものであったというお話を伺う中で、プラン作成をサポートした筆者としても嬉しい限りであり、また思っていた以上の研修成果に驚かされた。

公開セミナーにおいては、多数の参加者が大変熱心に聴講し、盛況に終わった。ただ、講演を行った筆者としては、聴講者にとって気づきが得られる内容であったのか、この点が今も把握できず残念である。

次の機会があるならば、現地ニーズをよく理解した上で望みたい。

最後になるが、現地で飲んだアルヒ(無色透明の蒸留乳酒)は味わい深く、いくら飲んでも翌日は頭スッキリ最高!アルヒをお土産に帰路についた。

「2003年度モンゴル同窓会 フォローアップセミナー」

- ◎実施日時 9/18～9/20
- ◎実施場所 モンゴル ウランバートル
- ◎研修参加者 <非公開セミナー>
PREXモンゴル同窓会会員12名
<公開セミナー>
モンゴルの企業幹部・起業家等
計132名
- ◎関係機関 国際協力事業団
モンゴル日本センター
PREXモンゴル同窓会
- ◎内 容 <非公開セミナー>
同窓会フォローアップ
<公開セミナー>
講演…日本・モンゴル企業経営の事例
パネルディスカッション…モンゴル企業の発展可能性

お世話になった企業・団体の方々

クリエイション 内海政嘉 代表取締役、Beren Corporation, President, Mr.B.Munkhtur、鴻池組 海外事業部 モンゴル駐在員事務所 左右田秀二 所長、伊藤忠商事 ウランバートル事務所 日高信雅 所長、長谷部インターナショナル フラワーホテル林洋一 支配人、住友商事ウランバートルオフィス 藤原ひろと 所長

『自然回帰の民 “モンゴル人”』

モンゴル同窓会員へのフォローアップ事業でモンゴルへ約1週間出張した。最終日、ゲル(遊牧民のテント式住居)に泊まりがけで、首都ウランバートル郊外へ行く機会を得た。同窓会員はほとんどが企業経営者で、電子メールもパソコンもさらには電話兼用の携帯端末さえ使いこなすバリバリのビジネスマナーが揃っていた。しかし短い夏には都会を離れ郊外へ行き、家族とともに大自然に溶け込む生活を過ごすという。日本から多額のODAを受けながら避暑に行くなど、内心納得できない思いでいたが、後でこの考えは浅はかであることに気付かされた。夜デコボコ道をジープに揺られて1時間強、宿泊予定地に着きすぐ、羊の石つめ蒸

し焼き肉にアルヒ(モンゴルウォッカ)とアイラグ(馬乳酒)での歓迎を受けた。引き続きゲル内で車座になって、順に1曲歌いコップに注がれたアルヒを飲み干し、次の人に回す宴会が延々と続いた。途中ゲルを出てモンゴル同窓会員と肩を組み満天の星を見た。口をついて出るのは感嘆符ばかりであった。その後ゲルに戻ったところで、下戸の私の記憶は惜しくも途切れてしまっていた。翌日早朝、朝日に浮かび上がるモンゴル大地を目の当たりにし、静寂の中で頭上を低く飛ぶ鳥の羽ばたきを聞いた時、モンゴル人の自然回帰を理解できた気がした。帰りがけにした乗馬体験、手綱はガイドに引かれながらであったが、小高い丘の上、馬上からモンゴルの英雄チンギスハーンの故郷を遠く眺めた時の自然との一体感は忘れられ

ない。このときふと頭に浮かんで来たのは、馬頭琴の調べに合わせホーミー(のど笛)を歌う男の子の姿であり、彼の歌声はごく自然にモンゴル大地に沁みこんでいくようであった。

一国際交流部 担当部長 深津 猛夫



朝早く目覚め、ゲルを出て日の出とともに浮かび上がるモンゴルの大地を眺める筆者。



阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」を訪問

[救急・大災害医療セミナーII]

救急・大災害医療セミナーIIでは各国の救急医療に携わる医師を対象として、講義、討論、施設見学などを通じ、わが国の救急医療体制の整備過程と現状を紹介する。また各国の救急・大災害医療の事情紹介、比較研究を行い、参加各国の救急・大災害医療の改善と、大災害時の国際医療協力の発展に寄与することを目的とする。なお、本セミナーは10年以上続いており、昨年度からPREXが専門家の方々のご協力を得て受託、実施している。本年度から新バージョンとして再スタートした。



「人と防災未来センターの機能」について熱心に説明を聞く各国からの研修参加者



人と防災未来センターの上級研究員も務めておられる、本コースの運営委員長、大阪府立千里救命救急センター甲斐副所長（左から3人目）と研修員

人と防災未来センターは阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に継承し、災害による被害の軽減に貢献するとともに、大震災に負けない未来を提案することを目的に企画され、昨春に「震災未来館」が、そして今春に「ひと未来館」がオープンし完成をみた。今回の訪問では8年前の大震災で「どのようなことが起こり、それに対する救援活動がどのように行なわれ、何が問題だったのか、今後どのように対処しておくべきか」を学ぶために訪問した。

まず最初に「1.17シアター」で、震災により都市基盤が崩壊していく迫力ある映像で地震の凄さ怖さを感じ、次の「震災直後のまち」で震災直後の破壊された町並みを実物大ジオラマ模型で実感した後に、「大震災ホール」では被災した女子中学生の体験を基に、震災から復旧・復興していく街の姿をドキュメンタリー風に描いた映画が上映され、研修員のなかには涙するものもいた。その後「展示コーナー」に移

り、各人が関心のあるブースで震災の実物資料や詳細データを見て回っていたが、研修員は全員医療関係者だけに救急医療に関連するところを熱心に見ていたようだった。ある研修員は震災に会われた年配の語部の話に熱心に聞き入り、震災の恐ろしさを肌身に感じているようだった。見学の最後に「こころのシアター」で葉っぱのフレディのハイビジョン映画を見て、震災に打ち勝つ未来を感じる取ることができたようで全員がホッとしていた。

午後は、まず本センターの別の3機能「人材育成、調査研究、交流・ネットワーク」についての説明を受けた。説明の中で特に印象に残ったのは、全国の防災担当幹部職員などを対象にした「災害対策専門家研修」で、不幸から得た大きな経験を全国自治体の防災能力の向上に役立てようとしていることだった。

次に3名の専任研究員から「災害後の都市復興に関する研究」、「電力供給量の

変動による早期被害状況把握方法」、「災害ボランティア」の3テーマの調査研究についての説明を聞いたあと、研修員からは精神医学面からの質問や、医療的見地から電力供給量の変動の有効活用方法、自国のボランティア活動と比較した日本のNPO活動等に関する多くの質問が出ていた。

最後に研修員から今回の参加国の中でトルコ、メキシコ、インド、中国などが地震国で今回の訪問が大変参考になり、かつ本センターの活動が先進的で敬意を表する旨のお礼の言葉があった。同行した私も今回の訪問が研修参加国の災害による被害の軽減に少しでも役立つことを信じ本センターを後にした。

一国際交流部 担当部長 大塚 迪夫



本コースのカリキュラムで神戸大学医学部附属病院を訪問時、災害救急医療用ヘリポートを備えた新病棟について紹介される同病院石井救急部長（中央）と、その説明に熱心に耳を傾ける研修員

「救急・大災害医療セミナーII」

- ◎実施日時 8/27～9/17
- ◎研修参加者 インド・ケニア・メキシコ・パラグアイ・サウジアラビア・トルコ・ベネズエラ・中国の救急医療や災害緊急医療に携わる医師 9名
- ◎関係機関 国際協力事業団（JICA）大阪国際センター
- ◎内 容 日本の体系的な救急医療体制及び災害救助体制の見学研修

お世話になった病院・団体他（講義及び訪問順・敬称略）

大阪府立千里救命救急センター、市立豊中病院、大阪市救急医療事業団、大阪府立病院、JICA国際緊急援助隊、国立国際医療センター、放射線医学総合研究所緊急被災医療センター、日本赤十字社、国立病院東京災害医療センター、東京消防庁消防学校、神戸大学医学部附属病院、神戸市消防局、人と防災未来センター、日本中毒情報センター、陸上自衛隊中部方面総監部、大阪大学大学院医学系研究科、同附属病院、兵庫県立西宮病院、聖隷三方原病院、災害人道医療支援会、国立感染症研究所、日本医科大学多摩永山病院救命救急センター



新たな遠隔研修方式のテストランーAOTS遠隔研修システムの有効活用ー

[インドネシア現地研修]

PREXでは海外技術者研修協会(AOTS)の制度と遠隔研修システムを利用し、関西経済連合会、インドネシア貿易研修センターの協力を得て、インドネシアで研修を実施した。本研修では、マーケティングプランや輸出手続の演習や、インドネシア産業の優位点、日本市場の特徴、日本のビジネスマナーに関する講義を通して、海外市場参入方法を考えた。

PREXでは、ここ数年、TV会議システムを活用して、大阪と海外の間を画像、音声を含めて双方向で結ぶ遠隔研修を実施しているが、その都度機材をレンタルし、回線を結ぶ方式をとっていた。そのため費用対効果の観点で大きな課題を抱えていた。本研修の中で、PREXとして初めて、

既存の情報ネットワーク網と機材を有効活用した、新たな研修を実施した。今回はテレビ会議システムが完備されているAOTS事務所間、つまり、講師(JMコンサルティング代表 松永仁一氏)のいるAOTS関西研修センターと研修員のいるAOTSジャカルタ事務所を結んで実施した。電力や通信事情の関係で、前日のテストでは不安が残ったが、AOTS職員の方々の努力により、朝からクリアな画像がスクリーンに現れた。TV会議にありがちな一方通行の講義にならないよう適宜質疑応答の時間を設けるなど、講師側の工夫もあって、6時間の長丁場を乗り切った。日本人や日本市場に関する情報を豊富に盛り込んだ講義

は、これから日本市場参入を目指す研修員にとって貴重な情報となった。その後、講義をヒントにグループに分かれて演習を行い、日本から派遣した講師からのアドバイスももらった。遠隔研修と現地研修がうまく組み合った瞬間だった。本研修でのテストランが、IT化、ブローバリーゼーションの進展に対応し、既存の情報ネットワーク網、機材の有効活用など費用対効果の観点も考慮した、新たな遠隔研修方式の導入と定着化につながると確信する。

ー国際交流部 主事 三浦 佳子

講師の声

曾我典夫 三山株式会社 社長席付監査室長

現地で担当したセッションでは、営業マンとして40年間、商社での海外駐在と取引で得た経験を踏まえて、日本向けの貿易促進の話を行いました。日本市場の特殊性とそのアプローチ方法を説明し、日本では大手商社は中小企業の商品を取り扱わないので、JETROなどの情報源からまず取り組み先を見つけるべく段取りをする必要があること、その上で、最後は興味を示した客先への訪問と見本市等への参加をすすめました。

その後、実際に参加者をアパレル・家具・雑貨の3チームにわけ、それぞれのグループで狙う商品を具体的に決定させ、その販売チャネル、売上計画、見本選び、見本作りのための計画などを検討させ発表をして頂きました。

さらには、輸出に関連するインボイスなど

の書類を、実際の雛形をしめしながら、これもグループごとに作成させ、問題点を指摘しました。

研修とは直接関係ありませんが、滞在中に華僑系の繊維工場経営者に面談しました。中国からの半密輸品を中心に低価格の嵐が吹き荒れており、とても事業を継続できる状況ではなくなったと嘆いておりました。また、若い中国人経営者の中には、仲間内では日本に対する借入金を真面目に返済する事は馬鹿正直に過ぎるとの批判が出るまでにモラルの低下が進むなど、難儀な風潮が出ているとの話も聞きました。何とか早い時期に、現地の政府も取り組んでいる税務署・警察などの政府機関の正常化が結実し、経済が上昇気運に転換することを祈るばかりです。



最終日のファイナルディスカッションにて、左が曾我講師、右が現地講師のラハラ氏。ラハラ氏は日本の商社を通じて、日本と取引をしている。日本市場参入を考えている研修員に対して、お二人がユーモアを交えながらアドバイスを行った。



閉講式後に、研修員・講師・関係者で記念撮影。5日間、熱心に講義を聞き、演習に参加した研修員の晴れ晴れした顔が見える。



研修員が3グループに分かれて、演習を行う。会社名、住所、電話番号まで考えた上で、マーケティングプランを作成するという念の入れよう。

「インドネシア現地研修」

- ◎実施日時 8/25～29
- ◎実施場所 インドネシア(ジャカルタ)
- ◎講師 滋賀大学 小野田純丸教授、三山(株) 曾我典夫社長席付監査室長、JMコンサルティング 松永仁一代表
- ◎研修参加者 インドネシア国内の輸出企業担当者、経済団体関係者 20名
- ◎関係機関 海外技術者研修協会(AOTS)・関西経済連合会・インドネシア貿易研修センター
- ◎内容 国際貿易



アジア経済の発展と 日本の景気回復

PREX顧問 小川 修司

財団法人 海外技術者研修協会 (AOTS) 理事長

景気に少し明るさが見えてきました。株価が1万円台を回復したあと更に続伸し、9月中間期の企業業績も大分良くなっています。景気に明るさが戻ってきたのは何故か…。経済論壇の論議は相変わらずピンぼけ写真のようなものばかりですが、思考するところでは回復要因は2つ、1つは主としてアジア向けの輸出伸長、もう1つは薄型テレビ、デジカメ、DVDプレーヤーなどの「デジタル三種の神器」と半導体その他関連部品の売れ行き好調です。

両方とも、日本経済に好影響を与える要因としては、かなり長続きすることが期待できます。10年を超える超長期不況が漸く終わろうとしているのではないのでしょうか。もっとも97年に橋本内閣が採ったような愚かな引締め政策が行われなければの話ですが…。

2つの好況要因は、政府の経済政策とは殆ど何の関係ありません。経済論壇もこの10年余りトンチンカンなことを言い続けてきています。不良債権処理促進、規制緩和、企業のリストラ、金融の量的緩和等々、論壇主流派が提言し、官民を挙げて実行してきた対策は、景気振興上は、何の効果もありませんでした。

経済政策の衝にある政治家は、じっくり勉強するひまなどありませんから、いきおい論壇のエライ先生方の言に従った政策を支持する傾向があります。景気振興のための経済政策の貧困は、つまるところ経済論壇の貧困に起因するものと言ってよいでしょう。先生方の千篇の論文・万巻の著書は、「無功德・無恩沢」でした。

代わって景気回復の方向に日本経済の活路を拓きつつあるのは、結局のところ民間企業の活力

です。民間企業の活力こそ、積極的なアジア投資により彼の地の経済発展を促し、広汎なデジタル新製品の開発で国内に「デジタル革命」を引き起こす原動力になっています。

「パラダイム転換」という言葉があります。市場構造、企業活動、生活様式、人々の意識等々の広範囲に亘る経済社会の基本的な変化を指す便利な言葉です。最近の事例としては、アメリカのIT革命、EU通貨統合などが挙げられるでしょう。「パラダイム転換」は新しい需要を創造し、経済を活性化させ、好況を齎します。IT革命は90年代のアメリカ経済に空前の長期繁栄を齎し、通貨統合はヨーロッパの後進地域向けの投資を活性化させ、これら地域の好況を齎しました。

アジアの経済発展とデジタル革命は、日本経済に「パラダイム転換」を引き起こしつつあります。新たなパラダイムに適応するための様々な活動が続くことで、中長期に亘る経済の活況が期待されます。

PREXの事業も我がAOTSの事業も、人材育成を通じて、アジアの経済発展という「パラダイム転換」の一方の柱を支えてきました。永年の地道な協力が花開いた感じです。

第2次大戦後に於ける西ヨーロッパ経済の発展にとって、同レベルの経済が近接していることがどれだけ有意義であったか計り知れません。同じような事態が漸くアジアに生まれつつあり、それが日本経済に恩沢を齎しつつあります。アジアの経済発展を支援する人材育成の事業は、「構造改革」一点張りの現内閣の経済政策よりも、遥かに日本経済の活性化に貢献するものと言わなければなりません。

事務局
ニュース

11月実施の研修

■「同窓会フォローアップ事業

重慶・企業における環境対策セミナー」を実施

◎期 間 11/3～11/7

◎参加者 中国・重慶市の企業経営者幹部、
環境対策に携わる部門の職員 40名

◎内 容 企業経営において環境に配慮することの重要さと
その取り組みについて理解する

■「中国広西チワン族自治区中小企業振興視察団」を受入

◎期 間 11/10～11/19

◎参加者 広西チワン族自治区の行政官および
中小企業支援機関の幹部 7名

◎内 容 日本の中小企業支援の取り組みを中小企業支援実施
機関等の視察を通じて理解する

■「中東欧特設・中小企業振興セミナー」を実施

◎期 間 11/24～12/15

◎参加者 中東欧諸国で中小企業振興政策の立案や
実施に携わっている政府職員 7名

◎内 容 当該分野での日本の事例紹介と政策立案や
実施におけるアクションプランの検討

■一般公開セミナー「東欧諸国の経済情勢と企業環境」を実施

◎期 間 11/28 午後

◎場 所 piaNPO 6階 会議室

◎参加者 東欧諸国に関心のある一般市民、企業、
大学、行政、経済団体等の方

◎内 容 東欧諸国の経済情勢、
企業環境の紹介と意見交換

C O L U M N

ベトナムのオピニオンリーダー、グエン・フー・チョン氏、日本の農村を視察

国際交流部 コースリーダー 田中 綾子

「シンチャオクイビ!(皆さんこんにちは!)」ベトナム政治局員のチョン氏が8名の随員を従えて、京都府精華町役場に現れた。精華町鍛田町長と精華町議会奥野議長の出迎えで一行は精華町役場を見学、その後今回のメインイベントである農村を訪問した。

今回の訪問は外務省からの依頼でPREXがアレンジしたもので、精華町の乾谷(いぬいだに)の元気のある農家を訪問することになった。精華町では杉嶋乾谷区長、せいかグローバルネットの北野理事他20名にものぼる人たちが一行を大歓迎ムードで出迎えてくれた。最近では大阪や京都でも農村風景はかなり郊外に行かないとなかなか見られず、アレンジにも苦労した。しかし、ここは学研都市の近代的ビルのお隣に農村風景が広がっており、そのコントラストが絶妙な感じのする農村だった。この訪問は、何度も日本を訪れたことがあるチョン氏のたつての希望で、今まではなかなか時間がとれずに訪問できなかったため、今回少しでも時間があれば農村視察を行いたいという強い要望があり、今回のアレンジに至った。当日は夏日の空で、大変暑い日の照りつく中、一行は少々疲れもあつた様子だったが、積極的に質問をしていた。やはり農村の生活水準についての質問が多く、「一家に車は何台くらいあるのか」「年収はいくら位か」「年金はどれくらいもらっているのか」という具合であった。他には、「農村の管理方法について」などの質問もあった。

今回訪問した農村は兼業農家であったため、専業農家でかなり貧しい暮らしをしているベトナムとの格差に驚き、疑問をもって帰られたのかもしれないという気はする。しかし、いい天気の中、いかにも農家というところを見られて、満足げな顔で去っていかれたチョン氏を見て、また、暖かく迎えてくださった乾谷の方々の暖かい心に触れ、ホッとした一日であった。



精華町役場で鍛田町長、奥野町議会議長の出迎えを受ける(左から4人目がチョン氏、向かって右、鍛田町長、三田PREX専務理事、左、奥野議長)



杉嶋乾谷区長(中央左)の案内で農村見学



北野グローバルネット理事(後方で左手に資料)をはじめ、地元農家大歓迎の中でのティータイム

PREXの
研修実績

2003年
9月末現在

PREXは、1990年4月設立以降、
開発途上国の人材育成事業と、
その活動を通しての
国際的人材交流促進に
努めています。

●研修累計(1990～)

209コース

●受講者累計(1990～)

95カ国・地域 7,026名

【受入(訪日)研修 2,201名/海外研修 4,825名】

●研修事業延べ講師数(2002年度)

106名

●研修事業延べ訪問先(企業/団体)数
(2002年度)

321団体

編集・発行

財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事 三田 昌孝

〒552-0021 大阪市港区築港2丁目8-24
pia NPO 5階 502号室

TEL 06-4395-2650
FAX 06-4395-2640

ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
電子メールアドレス: prex@prex-hrd.or.jp